

17a-P2-15

大学生のサークル活動から見た全方位工作教室の必要性

The necessity of “Science Experiments Course” in omni-direction from the view of
university student activities

中部大工, °野村詩織, 古川仁貴, 北田 凧, 岡島茂樹, 柴田祥一, 阪田 泉, 中山和也,

伊藤幸雄, 伊藤智幹, 科学物理実験会グループメンバー

Chubu Univ., °S. Nomura, M. Furukawa, N. Kitada, S. Okajima, S. Shibata, I. Sakata,

K. Nakayama, Y. Itoh, C. Itoh, Group Members of Science and Physics Experiments

E-mail: EC11049 @ sti.chubu.ac.jp

2012 年 3 月中部大学に学生サークル「科学物理実験会」を発足させた。主に理科教室を通した理科の啓発活動を行っている。¹⁾ 部員 34 名の内、大学入学前に理科教室のスタッフを経験した者は 2 名である。本年度の新入部員は計 16 名（工学部：13 名、生命健康科学部：3 名；内女学生 4 名）である。本サークルの特徴として、文科系の学生もいること、女子学生数が多いこと、の二つが挙げられる。本学が総合大学であり、文理合わせて 7 学部 29 学科ある事が、部員構成の面で生かされている。また、総合大学とはいえ女子学生の割合が少ない。理工系の活動が主体である本サークルにおいて、設立以来常に一定数の女子学生比率が維持出来たことは、理数系は男子が得意、文科系は女子、と言う世間一般のステレオタイプを覆すものである。女子学生数は次世代に良い影響を与えることが出来る。

一般に、理科嫌いの学生は多いと言われているが、数学のみが苦手だからという理由で文系選択をした学生も多いだろう。彼らが全て本当に理科が嫌いとは限らない。1. 単純に理科の面白さに触れる機会が無かったという場合もある。2. また理科を知らずに工学部に来る学生もいる。3. 受験制度の変容により、高校時代、数Ⅲはおろか、化学も物理も全く履修せずに、工学部に入学する学生もいる。4. 就職に良いから、という理由だけで工学部を志望する学生が少なからずいる。

サークル活動を通して知り得たことを紹介する。例えば、「こどもサイエンス王国」²⁾ を中部大学で 2013 年 3 月に開催した。これには、他大学・学内の他のサークルにも出展を依頼した。これ等の団体から今後の工作教室についての問い合わせがあり、理科活動への興味の継続が窺えた。また本年度学内 ESD 発表会にて、本サークルの活動発表をした後、経営情報学部を中心とした学生団体から工作教室の依頼があった。これらは非理工系学生の、理科に対する興味の発芽、つまりは内部意識改革といえる。付き添いで参加した親からも期待が寄せられた。

サークルに集まる学生、イベントに関心を示す団体から以下のことを知り得た。A. 従来の様な小中学生対象の理科教室は、対象者だけではなく、開催者の高校生・大学生・大人自身に対しても啓発活動と成りうる。B. 小学生、中学生、高校生、大学生、大人を対象にした理科教室の開催は意義はある。C. 大学生に関しては、理系向け、文系向けと分けた開催も良いと考える。

¹⁾「おもしろ科学実験教室」による大学生の科学啓発活動 第 59 回応物関係連合講演会 (2012 春早大) (16a-GP1-10)

²⁾大学生部活動としてのおもしろ科学実験教室 第 60 回応物関係連合講演会 (2013 春神奈川工科大) (28a-PA1-14)